
地域の取り組み・課題集

～ きずなづくりトークのまとめ ～

西小学校区編

—改訂版—



平成 27 年 3 月

三島市

凡例（各意見に印をつけて、いつ出された意見かわかるようにしています）

△：H23.06.10 テーマ「1 地域の防災力向上と被災時の対応」
「2 高齢者から子どもまで多世代の交流による活性化」

▲：H23.10.14 テーマ「1 地域の防災力向上と絆づくり～前回の議論を受けて～」
「2 ごみ問題と美しい地域づくり」

○：H24.05.21 テーマ「みんなでふれあい創出」

●：H24.10.15 テーマ「地域の防災力～みんなで何ができるか考えよう～」

◇：H25.07.01 テーマ「子どもの健全育成と高齢者が安心できる地域づくりについて」

◆：H25.10.21 テーマ「子どもの健全育成と高齢者が安心できる地域づくりについて」

□：H26.05.22 テーマ「防災訓練」「子どもの健全育成」「高齢者」

■：H26.10.03 過去の意見等を参考に関心の高いテーマに絞り、話し合いました。
テーマ「地域のコミュニケーション力を広げていく場づくりを考えよう！」（P5-6 掲載）

◎：市の意見・回答
⇒：課題解決に向けた取り組み事例

（※担い手略称 自：自治(町)人会、民：民生委員、子：子ども会、体振：老人会、しゃ：しゃぎり保存会、ス：スポーツ推進委員）

	課題	担い手	
防災訓練	①住民・子どもの参加促進	<p>▲訓練と祭りの同時実施を始めてから 30 年たつが、防災の意識付けはまだ甘いと言われる。みなさんのアドバイスを頂きたい。(清住町)</p> <p>●炊き出しメニューを増やすなど、訓練参加者促進の工夫を考える。 ⇒●子ども会対象に訓練実施。子どもがほぼ全員参加した。(栄町)</p> <p>⇒◆防災訓練、なおらい、子どもは地域の宝事業の3行事を同時実施。訓練に子どもから大人まで参加した。(栄町)</p> <p>□災害の実体験がなく、危機感がない。自分は大丈夫という安心感を変えたい。</p> <p>□訓練内容を少しずつ変更し、参加者へ変更点をアピールするしかないと思う。</p> <p>□子ども会や学校の協力を得て、子ども達のアイデアや女性の声を聞き、訓練を組み立てていくことも必要だと思う。</p> <p>●各町内から訓練や行事等連絡する場合、市の広報を活用したい。</p> <p>●◇学校でも訓練機会を設けたり、互助の大切さを教えてほしい。</p> <p>◇中学生の部活を考慮し 12 月(地域防災の日)に実施してほしい。</p> <p>⇒●事前に学校から生徒に訓練日を知らせて参加を促した結果、参加者が増加。(南中)</p> <p>◇自治会連合会で訓練日の設定を考えたい。</p> <p>□起震車や機材など制約がある。それでも一斉に魅力的な訓練をするなら、独自性を出すための工夫が必要。</p>	<p>自</p> <p>自・子</p> <p>自</p> <p>校区全体</p> <p>小・中</p> <p>自</p> <p>中</p>
	②防災体制の強化	<p>△○団員確保に向けた取り組みが必要。(消防団)</p> <p>●情報共有や意識啓発に仕組み、防災講習や救命士講習の受講者を増やし、救護可能な人数を増やしたい。</p> <p>●災害時、町内に災害本部を立上げ、西小との連絡や防犯パトロールを行いたい。</p> <p>●◇同時多発火災も想定した各自治体の消火体制整備が必要。</p> <p>●消火のため川での可搬ポンプ使用場所を考えた方がいい。</p> <p>◇西小区で避難所運営を考えていく。</p> <p>⇒◇組のブロック化を進め、防災体制の立て直しを実施。(緑町)</p> <p>⇒◆避難所運営訓練の前段階として各町内の防災体制を整備した。</p> <p>⇒◆人手不足を補うため、冬の「火の用心」を組単位制にして実施。</p>	<p>校区全体</p> <p>校区全体</p> <p>自</p> <p>校区全体</p> <p>自</p> <p>自</p>

	課題	担い手
	<p>□昼間に災害が発生した場合、子ども・専業主婦・高齢者しかいない。どういったことができるのか。</p> <p>●マンションは停電時、エレベーターやトイレが使用できなくなる。住民が災害に対応できるよう防災意識を持つことが大事。</p> <p>⇒□マンションで防災委員会を立ち上げ独自の防災マニュアル作成。</p>	自
	<p>③ 要 援 護 者 の 把 握</p> <p>⇒●自分で町内の要援護者を把握し、支援体制を整備。(広小路町)</p> <p>⇒◇◆要援護者支援に中高生も志願。訓練で活躍した。(緑町)</p> <p>●要援護者1人につき、支援者を2～3名はつけたい。</p> <p>□昼間災害が発生した場合、仕事があると救助に行けない。支援者確保が課題。</p> <p>□班の中で自主防災組織を構築し、その中で要援護者を支援していく。(緑町)</p> <p>□緑町自主防災会では中学生・高校生も入った支援体制を作っている。中高生は卒業してしまうので、その体制は同じ様に続くわけではない。毎年確認が必要。</p> <p>●防犯ブザーは音を出しやすいので普及させてほしい。</p> <p>●◇乳幼児や外国人、寝たきり老人など要援護者を広く把握する。</p> <p>◇民生委員と自治会で要援護者の情報共有を図る。</p> <p>●◇毎年、要援護者リストは変化するので継続調査が大事。</p> <p>◇民生委員は災害時大事な役を請け負っている為、町内の人にやってもらいたい。</p>	<p>自</p> <p>自・中・高</p> <p>自</p> <p>自・中・高</p> <p>自・民</p> <p>民</p>
子どもの健全育成	<p>① 地 域 活 動 へ の 参 加 促 進</p> <p>◇普段から町内行事に中高生が参加し、交流を深める方策が必要。</p> <p>◇各行事に子どもが参加するよう学校からも伝えてほしい。</p> <p>◆地域で年代を超えて子どもを見守る取り組みを進めたい。</p> <p>○健康政策でラジオ体操の助成をお願いしたい。</p> <p>⇒◆しゃぎり保存会の協力で中学生の行事参加を促進。(泉町)</p> <p>⇒◆役員をマンションから選出したところ、マンション住人の行事参加が増加した。(南町)</p>	<p>小・中 校区全体 市 しゃ 自</p>
	<p>② 3 世 代 交 流</p> <p>⇒「子どもは地域の宝事業」のイベントに、子どもからお年寄りまで幅広い世代が参加した。(広小路町)</p> <p>○今後も「子どもは地域の宝事業」を継続してほしい。</p> <p>◇町内行事に高齢者を参加させる方法を考えたい。</p> <p>◇地域で子どもたちを見守ってほしい。</p> <p>◇3世代交流の前にまず親子、保護者と地域の交流を進めるといい。</p> <p>◇◆保護者同士が語り合える場や地域と保護者のつながりが課題。学校を使用した3世代交流の方法なども考えたい。</p> <p>◆子どもが遊んでいる傍で大人がくつろげる場所があるといい。</p> <p>→【■テーマ別会議(P5-6)に発展】</p> <p>◆幼稚園、保育園と地域がふれあう機会を増やしたい。</p> <p>○各町内対抗の市民の中央大会を実施してほしい。</p> <p>⇒◆3行事を一度に実施したところ、青年会再度立上げ案や婦人会新設の意見が出てきた。(栄町)</p> <p>⇒◆運動会でしゃぎり保存会が中心となり交流競技実施。(泉町)</p>	<p>自</p> <p>市 校区全体</p> <p>小・自</p> <p>幼・保・自 ス 自</p> <p>しゃ</p>

	課題	担い手
	③ 挨拶の促進 ◇挨拶など、子どもの健全育成は家庭教育が大事 ◆パトロールとともに声かけ運動も行っていく。 ⇒◇名札を使用し自分の所属をはっきりさせると、子どもは安心する。(南小MLS)	校区全体 各団体
	④ 子ども会の存続 ◇◆母親を説得するなどして子ども会入会を進めていきたい。 ◆親がいなくても子ども会に参加できる体制づくりが必要。 ◆共働き家庭の対応も必要。 ◆学校で子ども会の集まりを開けないか。 ◆子ども会は親世代のまとまりが大事。 ◎子ども会に多く参加してもらうために、町内でサポート体制を整備すること、親からも送迎の援助が欲しいなどの情報発信が必要。 □「子ども会は小学校から入る」ではなく、「生まれた時から地域の子ども=子ども会予備軍」という意識が大事。	子 子・小 各団体
高齢者	① 高齢者の見守り ◇地域行事での高齢者の活躍、また参加を促したい。 ◇自治会会場は2階にあり、高齢者の集まりに使用するのは難しい。お祭りなどを利用し自治会会場以外で高齢者の参加を募りたい。 ⇒◇◆マンション住人と交流がなかったが、民生委員の力添えて色々な会ができ広く活動が浸透してきた。(南町)	自 自・民
	② 老人会の存続 ◆町内会に老人会の行事内容や予算決定など、町内会とのつなぎ役を担う老人会担当役員がいるといい。 ◇老人会のない地域は西老連が応援するので復活させて欲しい。 □この校区のコミュニケーションはよくできている。交流、情報共有の場を持ってもらえば、ますますこの地域が発展すると思う。	自 自・老
地域の連携	① 環境美化 ○年間の花こよみ、公園に花を植えるなどのアイデアがほしい。 ○景観のため電線を見えないようにしてもらいたい。 ▲市全体でゴミ袋に町内名を書くようにすれば、ごみの出し方も変わってくるのではないか。 ○近隣市町と連携したゴミの持ち込み対策をしてほしい。 ○ゴミの分別、水切りの重要性のPRが必要。 ○生ゴミの肥料化などに取り組んではどうか。 ○ゴミの集積場のカラス対策が必要。(黄色いゴミ袋を使用するなど) ○泉町でも川清掃を行っているが、土日には高齢者にもっと頑張ってもらいたい。	校区全体
	② 地域の連携 ○男性が入れるよう「中央男性学級」を創設してほしい。 ◆きずなづくり推進モデル地区を紹介してほしい。視察や勉強会等につながる。 ◆市民に各自治会の活動内容の紹介・情報発信をして欲しい。	市 市


■H26.10.03 テーマ別会議まとめ

テーマ
地域のコミュニケーションを広げていく場づくりを考えよう！

●コミュニケーションを広げていく場づくりについて、参加者全員のご意見・ご提案をまとめました。


★ そもそもの問題点・背景 ★

- ・組長が1年交代で変わるため、コミュニケーションに対する持続性がない。
- ・子どもの数が少ないので、対策が立てられない。
- ・全員参加が当たり前でなくなった。(生活スタイルの変化)
- ・親が子どもの行動を決めてしまう。子ども会に入らない。
- ・自治会で既にいろいろやっている。同じ人しか参加しない。今の状態で限界。
- ・新しい意見、パワーが必要。



★ 高齢者の基準に関する意見

- ・老人(要援護者)の基準を再考
- ・独居老人基準 65歳→80歳へ
- ・要援護者対象者が減る。
⇒把握しやすくなる。
⇒自治会の負担軽減につながる。


まずは「情報の整理」と、「情報発信を強化」しよう 

★情報収集・話し合い

- 場づくりの先進的な地域があるなら、そこを見習うなり、情報をもらう。
- どのような場があるか募る。
- 祭り、ラジオ体操、運動会、バス旅行等→フリーディスカッションが必要では？

★広報・PRの強化

- 回覧板は見ている人がほとんど。
- 各種団体の活動状況を記した回覧物等を発行し、参加者を募る。
- 自分の地域をPR
- 地域の自慢、地域を自慢

日ごろのコミュニケーションから広げよう 

★あいさつ

- コミュニケーションにつながる。
- すれちがった時のあいさつ
- 登下校時の声かけ

★声かけを続ける

- 大人からの声かけを続ける。
＝「いつも見守っているよ」ということ。
- 域の行事へお誘い←園で紹介
- 地域参加は近所への声かけから。
⇒参加率UP 効果的

子どもを通じて広げよう



★子ども×高齢者

- 子どもと老人が集まれる場
- 老人会と子ども会。同時に集まれる場
- お年寄り子ども達のふれあいの場
- 「子どもは地域の宝物」事業がある。敬老の日には「高齢者は地域の宝物」みたいな行事をやる。子どもとの交流など。

★子ども会を取り込む

- 子ども会とのつながり大切
⇒将来は自治会、老人会へ。
- 子ども会活動を活発にする。若い父母、子どもに将来があり、末長いコミュニケーションになる。
- 子どものいる家庭の自治会(子ども会)離れをなくす。

★子ども×防災

- 第1分団では小学校に出向き、放水訓練実施
- 小、中、高校生の防災意識UP
- 幼年消防クラブから続くものを作る！

★小学校を軸に世代間交流

- 学校を交流の場(中心)に。
- 地域の人から学ぶ(人、歴史、自然)
- 学校支援地域本部。地域の方の協力をお願いしたい。

★中学生ボランティアを取り組む

- 地域のために何ができるか、子どもが自主的に考える。
- 中学生の地域ボランティアチームを作る。(小学校ごと)
- 古紙回収に中高生を入れたらどうか。

施設や行事を活用して広げよう



★施設を活用する

- 自治(町内)会館の活用によって、コミュニケーションを作る。
- 地域包括支援センターなど相談機関を周知。
- 「本町子育て支援センター」を住民全てに周知する。親だけでなくおじいちゃん、おばあちゃんも同行してください。

★サロンを作ろう

- 気軽に立ち寄れるサロンを立ち上げる。
- 要介護施設に行くほどではない人(高齢者)が集える場所も必要。
- 話を気軽に出来る場所。
- 空き家が目立つ。その土地を利用できるようになれば、子どもの遊び場・コミュニケーションの場(外遊びの場)に出来ないでしょうか？

★新イベント・新行事を開催

- 全町内に参加する新しい行事を計画する。(どんど焼きなど)
- 若人会を作る(責任者いない?)

★既存の行事・団体を活用する

- お祭りのしゃぎりの稽古を利用して、コミュニケーションを図る。
- しゃぎり保存会に中高生参加を求める。
- しゃぎり保存会を青年部にして、自治会の活動に参加。
- 運動会、防災訓練
- 河川の清掃管理をきめ細かく行う。
- 地域は自分達で守る。消防団OBは地域防災でも役立つ。
- 青年会活動。「火の番」町内の方に大変感謝されている。

★ラジオ体操に行く

- ラジオ体操を多くの地域で行う。参加する。
- 防災訓練、運動会、祭りなどは年1回で、コミュニケーションはなかなか取りにくい。ラジオ体操ならば雨以外の日は行うので、コミュニケーションが取れる。

補足資料

きずなづくりトークの意見まとめ

これまでの「きずなづくりトーク」で皆さんから出していただいた地域の現況・課題を整理しました。

※平成 23～26 年度 西小学校区きずなづくりトーク参加団体一覧

自治（町内）会	各種団体	幼・保・小・中
栄町自治会 加屋町自治会 広小路町自治会 三好町自治会 寿町自治会 清住町自治会 西若町自治会 西本町町内会 泉町自治会 南町自治会 本町大中島自治会 緑町自治会	環境美化推進委員会 民生委員児童委員協議会 消防団第 1 分団 防災指導員 西女性の会 エコリーダー 地域コーディネーター 地域づくりコーディネーター 広小路駅南通り商店会 交通安全母の会 地域包括支援センター	緑町佐野保育園 西幼稚園 西幼稚園 P T A 西小学校 西小学校 P T A 南中学校 南中学校 P T A 南中 M L S ・ おやじの会 学校支援地域本部
老人クラブ	スポーツ関係	子ども会
加屋町歩会 寿町寿会 栄町長寿会 西若西友クラブ 広小路町楽寿会 三ツ石老人会 緑町みどり会 南和会	スポーツ推進委員会 西小学校区体育振興会 体育指導員会	加屋町子ども会 清住町子ども会 寿町子ども会 栄町子ども会 緑町子ども会 西本町子ども会

※平成 2 3 年度は「地域づくり市民会議」の名称で開催しています。

凡例（各意見に印をつけて、いつ出された意見かわかるようにしています）
 △：H23.06.10 テーマ「1 地域の防災力向上と被災時の対応」
 「2 高齢者から子どもまで多世代の交流による活性化」
 ▲：H23.10.14 テーマ「1 地域の防災力向上と絆づくり～前回の議論を受けて～」
 「2 ごみ問題と美しい地域づくり」
 ○：H24.05.21 テーマ「みんなでふれあい創出」
 ●：H24.10.15 テーマ「地域の防災力～みんなで何ができるか考えよう～」
 ◇：H25.07.01 テーマ「子どもの健全育成と高齢者が安心できる地域づくりについて」
 ◆：H25.10.21 テーマ「子どもの健全育成と高齢者が安心できる地域づくりについて」
 □：H26.05.22 テーマ「防災訓練」「子どもの健全育成」「高齢者」
 ■：H26.10.03 過去の意見等を参考に関心の高いテーマに絞り、話し合いました。
 テーマ「地域のコミュニケーション力を広げていく場づくりを考えよう！」（P5-6 掲載）
 ◎：市の意見・回答

（※担い手略称 スポ推委：スポーツ推進委員）

	現況	課題	担い手	結果・実績
1. 防災訓練				
	①住民・子どもの参加促進			
	<p>▲防災訓練とお祭りを同時実施「自主防災設立記念祭(平成 23 年度 30 周年)」。今年は「命のパスポート」「家庭内DIG」を参加者に配布。273 世帯中 155 世帯、56%の参加あり。(清住町)</p> <p>●子ども会と保護者対象に防災訓練実施(消火器・担架搬送・炊き出し)。町内の子どもがほぼ全員参加し、いい訓練になった。(栄町)</p> <p>◆なおらい、子どもは地域の宝事業、防災訓練の3つを組み合わせ一度に実施。子どもからお年寄りまでを対象とし、呼び掛けた。(栄町)</p> <p>●防災訓練や体育祭等各町内から連絡する場合、市の広報が役立つ。(栄町)</p> <p>□訓練開催が涼しい時期に変更になり感謝している。消火器訓練、煙の訓練は楽しく良い経験になっている。</p> <p>□マンネリ化している。魅力が無くなり、参加者が少しずつ減少している。</p> <p>□マンネリ化対策として、マンション 1 階のスペースを利用して、日持ちする食材や安全機器の展示を考えている。</p> <p>□住民や子どもの生の意見・希望を疎かにしているのではないか。</p>	<p>▲30 年、訓練と祭りの同時実施で防災意識を培ってきたが、まだまだ幼稚という方もいる。ぜひ皆さんのアドバイスをいただきたい。(清住町)</p> <p>●炊き出しのメニューを工夫し参加者を増やしたい。</p> <p>●市の広報を活用したい。</p> <p>□災害の実体験がなく、危機感がない。自分は大丈夫という安心感を変えていかないといけない。</p> <p>□訓練内容を少しずつ変えていき、変更点をアピールするしかないかと思う。</p> <p>□子ども会や学校の協力を得て、子ども達のアイデアや女性の声を聞き、訓練を組み立てていくことも必要だと思ふ。</p>	<p>自治会</p> <p>自治会</p> <p>自治会</p>	<p>⇒●子ども会対象に訓練を行い子ども全員参加した。</p> <p>⇒◆3行事同時実施し子どもから大人まで参加した。</p>
	<p>●震災発生時、児童は運動場に避難させ、その後保護者に引き渡す。子どもの命を最優先に考えている。(西小)</p> <p>□中学生に魅力的な訓練について尋ねてもピンとこない。それよりも、いざ災害が起きた時、中学生はどういう活動ができるか考えることが一番だと思う。</p> <p>●今年、教育委員会が各自治体から防災訓練の情報を集め、事前に学校から生徒に知らせるようにしたので、参加者が増加した。(南中)</p> <p>●学校では地域行事参加を指導しているが、部活動があり参加困難。対策として参加賞を設置した。(南中)</p>	<p>●子どもも即戦力となる。学校でも訓練機会を設けてほしい。</p> <p>◇災害時は互助が大事なことを学校教育で教えてほしい。</p> <p>□学校でも生徒に、なぜ訓練に出るのか、訓練の必要性を教えてほしい。</p> <p>□訓練をどうするかより、いざ大きな災害が起きた時にどうするかの方が課題。</p>	<p>小学校</p> <p>小学校自治会</p>	<p>⇒●事前に訓練情報を学校に伝え生徒に知らせることで生徒の訓練参加が増加した。</p>

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>◇12月は部活の大会がないので、子ども達に参加を呼びかけやすい。(南中)</p> <p>□訓練の日にちを統一できるなら、中学生は全員参加できると思う。12月の寒い時期が、子どもたちは参加しやすい。</p>	<p>◇12月の地域防災訓練日に訓練を実施してほしい。</p> <p>◇自治会連合会で訓練日の設定を考えたい。(広小路町)</p> <p>□起震車や機材など制約がある。それでも一斉に魅力的な訓練をするなら、独自性を出すための工夫が必要。</p>	<p>校区全体</p>	
②防災体制の強化			
<p>△消防団に若い人がなかなか入ってくれない。</p> <p>●富士常葉大学の協力で耐震住宅ワークショップを3回開催。(清住町)</p> <p>●消防署で上級救命士の講習を受講した。(緑町)</p> <p>◇防災組織の下部組織が組だが高齢者が多く自主防災ができなかった。今年、組のブロック化を進め防災組織の見直しを実施。若い人を組織の責任者にした。(緑町)</p> <p>●状況によっては、白道保育園が避難場所になる。(加屋町)</p> <p>◆避難所運営訓練の前段階として、各町内で防災訓練を実施。まず各町内で防災体制を整備した。今まで未実施の訓練や要援護者に関する新たな取り組みにつながった。(栄町)</p> <p>◆若い世代がいらないため12月中旬～3月上旬の「火の用心」を、去年から組単位で実施。(栄町)</p> <p>□この校区は世帯数・マンション・テナント・飲み屋も多い。昼間生活している世帯が非常に少ないことが問題。</p> <p>□一昨年マンションの理事会で防災委員会を立ち上げ、防災マニュアルを作った。昨年役割分担について話し合い、今年は防災企画委員会で防災体制(理念、目標など)を決める。組織・体制づくりから始めている。</p>	<p>△○団員確保に向けた取り組みが必要。(消防団)</p> <p>●防災講習受講者を増やすため、情報共有や意識啓発に取り組んでいきたい。</p> <p>●救命士講習等の受講者を増やし救護可能な人数を増やしたい。</p> <p>●災害時、町内に災害本部を立ち上げ、西小との連絡や防犯パトロールを行いたい。</p> <p>●◇災害発生時の家屋の倒壊と火災が問題。同時多発火災も想定した各自治体の消火体制整備が必要。</p> <p>●三島市は川の水量が豊富なので、川の可搬ポンプ使用場所を考えた方が良い。</p> <p>◇西小区{自治会連合会、広小路、本町大中島、本町小中島}で避難所運営を考えていく。</p> <p>□昼間に災害が発生した場合、子ども・専業主婦・高齢者しかいない。どういったことができるのか。</p> <p>●マンションは停電時、エレベーターやトイレが使用できなくなる。住民が災害に対応できるよう防災意識を持つことが大事。</p>	<p>校区全体</p> <p>自治会</p> <p>自治会</p> <p>自治会</p>	<p>⇒◇組のブロック化(防災体制の立て直し)実施。</p> <p>⇒◆各町内の防災体制を整備。新たな取り組みを実施。</p> <p>⇒◆組単位で「火の用心」を実施。</p> <p>⇒□マンションで防災委員会を立ち上げ独自の防災マニュアル作成。</p>
③要援護者の把握			
<p>▲65歳以上の一人暮らしの家を、民生委員と自主防災の方と3名で1軒1軒全部回った。承諾書を全員に書いていただいた。(寿町)</p> <p>●町独自でひとり暮らしの高齢者リストを作成し、防災訓練時に組長が安否確認実施。支援ボランティアを募集。(広小路町)</p> <p>●町内独自で要援護者を設定。(緑町)</p> <p>□従来、組単位の自主防災だったが、昨年それを解体し町内7班に分けて、それぞれ専任者をつけた。(緑町)</p>	<p>●要援護者1人につき、支援者を2～3名はつけたい。</p> <p>□班の中で自主防災組織を構築し、その中で要援護者を支援していくのが今年の目標。(緑町)</p>	<p>自治会</p>	<p>⇒●要援護者を把握し支援体制を整備した。</p>

	現況	課題	担い手	結果・実績
	<p>◇◆□要援護者の支援者に中高生が手を挙げてくれた。訓練では子どもを要援護者に見立てた搬送訓練を実施。支援者が子どもを避難所に搬送。(緑町)</p> <p>●ひとり暮らしの高齢者に笛ではなく防犯ブザーを配布した。(寿町)</p> <p>◇□要援護者の支援方法を検討中。防災委員の任期が短く、役員が代わるたびに最初からやり直し。民生委員と打ち合わせしても「個人情報が開示できない」で終了してしまう。(栄町)</p> <p>□今年、栄町自治会では組織・制度を変えた。防災セクションは自治会経験者とし、任期なしで長くやってもらおうと思っている。(栄町)</p> <p>●◇実際の要援護者には乳幼児のいる家庭や外国人、若くても障害のある方、幼・保育園児、病院の患者も含まれる。</p> <p>◇◇過去の要援護者リストは100%ではなかった。わかるところから訪問し、災害時の対応などについて数名から了解を得ている。(本町大中島)</p> <p>◇要援護者調査時、町内が入り組んでいるため他町も担当した。1人でも見逃さないよう努力している。(民生委員)</p> <p>◇大中島は民生委員が3名で3町を見るが、他町内の方が2人いる現状は大問題。(本町大中島)</p> <p>□防災委員は要援護者を知らないと災害時対応できない。</p> <p>□災害時は隣近所で助け合うことが基本。そんな地域社会に作り直していくことが自治会の役目だと思っている。</p>	<p>□緑町自主防災会では中学生・高校生も入った支援体制を作っている。中高生は卒業してしまうので、その体制は同じ様に続くわけではない。毎年確認が必要。</p> <p>●防犯ブザーは音を出しやすいので、普及させてほしい。</p> <p>●◇要援護者のくくりを広くした情報提供をお願いしたい。</p> <p>◇寝たきり老人の把握がどれ位できているのか疑問。</p> <p>◇民生委員と自治会で要援護者の情報共有を図りたい。</p> <p>●◇毎年、要援護者リストは変化するので継続調査が大事。</p> <p>◇民生委員は災害時に大事な役を請け負っているので、町内の人にやってもらいたい。</p> <p>□昼間災害が発生した場合、仕事をしている人は救助に行けない。支援者確保が課題。</p>	<p>自治会 中学生 高校生</p> <p>自治会 民生委員</p> <p>民生委員</p>	<p>⇒◇◆□支援者に中高生も志願。訓練で活躍し。</p>

2. 子どもの健全育成

①地域活動への参加促進				
	<p>▲毎年納涼祭実施。今年は「子どもは地域の宝事業」をかねて、「ふれあいもちつき大会」を企画。自治会・子ども会・青年会・みどり会全部の責任者と話し合いをしている。(緑町)</p> <p>◇自治会の年間行事にはしゃぎり、祭り、運動会、防災訓練などあるが、中高生で交流が途切れる。</p> <p>◆夏祭りでは親の参加を条件にしたが、子どもの参加が多かった。いいコミュニケーションが取れた。(西若町)</p> <p>◆子どもが参加すれば親も参加する。</p> <p>◆お祭りではしゃぎり保存会が中心になり、浴衣を作成。結果、ほとんどの中学生が参加し、その後の運動会にも来てくれた。(泉町)</p> <p>◆三島ラジオ体操連盟では田町広場、西小、大社前で実施。一日平均子ども100名、大人29名の参加があった。</p> <p>◆ラジオ体操を町内会で行うには自治会、子ども会の協力が必要。今は自主参加という形。</p> <p>◆ラジオ体操を6年生中心に町内の子を集めて行えば、子ども同士のつながりができ、いい</p>	<p>◇普段から西地区行事に中高生が参加して、大人と交流を深めていく方法があるといい。</p> <p>◇学校行事、地域行事に子どもが参加するよう学校からも伝えてほしい。</p> <p>◆地域で年代を超えて、子どもを見守る取り組みを進めたい。</p> <p>◆ラジオ体操は子どもの健全育成にも非常に良い。是非大勢の方に参加してほしい。</p> <p>○健康政策でラジオ体操は重要視されていないので、助成をお願いしたい。</p>	<p>小学校 中学校</p> <p>校区全体</p> <p>しゃぎり保存会</p>	<p>⇒◆しゃぎり保存会の協力で中学生の行事参加促進。</p>

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>め防止にもつながる。(加屋町)</p> <p>◆子ども会役員、町内会役員をマンションから必ず出す方針にしたところ、運動会でも参加者が増加した。(南町)</p> <p>□夏休みの西小ラジオ体操に一日平均 100 人参加している。西小おやじの会が参加した 8/25 は 176 名で、一番多かった。</p>	<p>□夏休みに限らず、皆に早朝ラジオ体操に参加してほしい。来る時・帰る時にコミュニケーションが生まれる。</p>	<p>自治会</p>	<p>⇒◆役員をマンションから選出→運動会参加者が増加。</p>
② 3 世代交流			
<p>○広小路町では「子どもは地域の宝事業」のイベントを開催。子どもからお年寄りまで総勢 60 名ほど集まった。</p> <p>◇3世代のふれあいを重視し、今年は活動を広げていく。若い人が中心になり、イベントを企画。(三好町)</p> <p>◇祖父母が子どもの成長に大きな役割を担う。(南町)</p> <p>◇昔は地域活動が活発だった。今の地域の状況は寂しいと感じる。</p> <p>◆行事は3世代が多く参加できるよう、遊び心を入れている。(緑町)</p> <p>◆なおらい、子どもは地域の宝事業、防災訓練の3つを組み合わせ一度に実施した。青年会を再度立ち上げる話、新しく婦人会を作る動きが出てきた。大変喜ばしい。(栄町)</p> <p>◇◆子どもたちのベースは学校教育、家庭教育。(小学校)</p> <p>◇南中ではMLS活動、キラリー斉清掃活動、南中オヤジの会など、少しずつ親子のきずなづくりが形をとり始めている。(南中)</p> <p>◆運動会ではしゃぎり保存会が中心となり、メンバーを組みかえた3世代交流競技を実施。(泉町)</p> <p>◇体育振興会がドッジボール大会開催。10 月には運動会で3世代リレーを行っている。(スポーツ推進委員)</p>	<p>○今後も「子どもは地域の宝事業」を継続してほしい。</p> <p>◇高齢者を参加させる方法を模索中。</p> <p>◇地域で3世代がうまく関わりを持てることが仕掛けられないか。</p> <p>□年寄りが関心をもち、子どもに干渉していくことが良いと思う。</p> <p>◇地域で子どもたちを見守ってほしい。</p> <p>□祭りの他にも3世代で参加できる行事があればいいと思う。</p> <p>◇一度に3世代交流は難しい。まず2世代のつながり(親子、保護者と地域)を作っていくといい。(南中)</p> <p>◇◆保護者同士が語り合える場や地域と保護者のつながりが課題。学校を使用した3世代交流の方法なども考えたい。</p> <p>◆幼稚園、保育園と地域がふれあう機会を増やしたい。</p> <p>◆子どもが遊んでいる傍で、大人がお茶を飲むような場所があるといい。</p> <p>○各町内対抗の市民の中央大会をやしてほしい。</p>	<p>自治会市</p> <p>校区全体</p> <p>自治会</p> <p>小学校自治会</p> <p>幼稚園 保育園 自治会</p> <p>しゃぎり保存会</p> <p>スポ推委</p>	<p>⇒○「子どもは地域の宝事業」で子どもからお年寄りまで参加してイベント実施。</p> <p>⇒◆3行事同時実施。青年会再度立ち上げ案、婦人会新設の動きが出てきた。</p> <p>⇒◆運動会でしゃぎり保存会が中心となり競技実施。</p>
③ 挨拶の促進			
<p>◇毎日挨拶することで自然と交流が広まる。</p> <p>◇自治会で交通安全週間に横断歩道の誘導をしているが子どもたちからの挨拶がなかった。(緑町)</p> <p>◇現代は不審者対策のため、子どもに人に親切にしないと単純に教えることはできない。(西小 PTA)</p> <p>◇名札で自分がどこの誰か所属をはっきりさせると、子どもたちは安心する。(南小 MLS)</p>	<p>◇挨拶など、子どもの健全育成は家庭教育が大事。</p> <p>◆清住町でパトロールをしているが、声かけ運動も大事。</p>	<p>校区全体</p> <p>各団体</p>	<p>⇒◇名札使用で子どもが安心する。</p>

現況	課題	担い手	結果・実績
④子どもの会存続			
<p>◇子ども会への全員参加は難しい。しゃぎりをやっている子も限られている。(緑町子ども会)</p> <p>◆子ども会を通じて様々な年代の方と交流が生まれている。</p> <p>◆コミュニケーションは子ども会に入り、地域の方と顔見知りになることから始まりずっと続く。(加屋町)</p> <p>◆不審者対策のため、行事には保護者による送迎が必須。送迎が難しいと入会は困難。(清住町子ども会)</p> <p>◆現在は子ども同士で、何かを計画する事が無い状況。</p> <p>□親の都合で子ども会に入らないのが大半。親が役員をやりたくないから子ども会に入れない。</p> <p>□現状、自治会が子ども会をサポートしなければ駄目だと思う。</p> <p>◆子ども会はないが、子どもは大勢いてしゃぎりにも多く参加している。(三好町)</p> <p>□加屋町では、祭り・しゃぎりの練習など自治会でサポートしているのが現状。子どもが赤ちゃんの時から、子ども会に自動的に入ってもらえるよう活動している。</p> <p>□本町大中島自治会では、「子どもは地域の宝事業」を行う時に、自治会と子ども会が一緒になって、親子共々赤ちゃんのお祝いをする。</p>	<p>◇子ども会にもっと多く参加してほしい。</p> <p>◆母親を説得するなどして子ども会入会を進めていきたい。</p> <p>◆親がいなくても子ども会に参加できる体制づくりが必要。</p> <p>◆共働き家庭の対応も必要。</p> <p>◆学校で子ども会の集まりを開けないか。</p> <p>◆価値観が多様化している。子ども会に入らないのは親の意思。考え方の差をどう埋めていくかが課題。</p> <p>◆子ども会は親世代のまとまりが大事。</p> <p>◎町内でサポートできる体制を作ることと、親からも送迎などの援助がほしいという情報発信を行うことが必要。</p> <p>□子ども会は小学校から入るのではなく、生まれた時から地域の子ども=子ども会予備軍であるという意識が大事。</p>	<p>子ども会</p> <p>小学校</p> <p>各団体</p> <p>自治会</p>	
3. 高齢者			
①高齢者の見守り			
<p>◇町内の高齢者は 3 割を占める。町内運営に関わってくる。(栄町)</p> <p>◆高齢者問題は各組で相談・見極めてもらう。(栄町)。</p> <p>◇泉町も 75 歳以上が非常に多い。(泉町)</p> <p>◇◆半分以上の 280 世帯が分譲マンションで交流がなかったが、民生委員の力添えて色々な会ができ徐々に浸透してきた。公民館もでき、詩吟、太極拳、将棋、カラオケ等の会に十数名が毎週来ている。(南町)</p> <p>◇高齢者の見守りには新聞配達、牛乳配達、郵便配達には市との協力があると思うが、クロネコヤマトの方も異変を知らせてくれた。(民生委員)</p>	<p>◇今年当番町なので、高齢者の活躍・参加を促したい。</p> <p>◇自治会会場は2階にあり、高齢者の集まりなどでの使用は難しい。お祭りなどを利用し自治会会場以外で高齢者の参加を募りたい。</p>	<p>自治会</p> <p>自治会</p> <p>民生委員</p>	<p>⇒◇◆交流がなかったが、民生委員の力添えて色々な会ができ、活動が浸透してきた。</p>
②老人会の存続			
<p>△高齢化が進んでいるが、老人会の参加率は悪い。</p> <p>◇西若西友クラブがあるが、60 歳以上の入会資格で会員約 60 名。4人に1人しか入っていない。(西若町)</p>		<p>自治会</p>	

	現況	課題	担い手	結果・実績
	<p>◇西老連の会長になった。老人人口が多い地域だが、11 町あるうちの7町しか老人会がない。(寿町寿会)</p> <p>◇グラウンドゴルフ大会、芸能祭、道路清掃など多数の行事実施。老人同士は仲良く会議を頻繁に行なっている。(寿町寿会)</p> <p>□年々、老人会会員が増加している。子ども会にも声をかけ、輪投げの練習など子ども会と交流している。(楽寿会、歩会)</p> <p>□勧誘もしているが、活動を見て老人会に入りたいと自主的な参加が多くなっている。互いに手を差し伸べることが自然にできている。</p> <p>◆西本町では老人会は消滅した。役員、会長を引き受ける人がいないことが理由。(西本町)</p>	<p>◇老人会のない地域はバックアップするので、復活させて欲しい。協力をお願いしたい。</p> <p>□この校区のコミュニケーションはよくできている。交流、情報共有の場を持ってもらえば、ますますこの地域が発展すると思う。</p> <p>◆町内会に老人会担当役員(老人会の行事内容や予算決定など、町内会とのつなぎ役)がいるといい。</p>		
4. 地域の連携				
①環境美化				
	<p>○長泉町では高齢者が率先して花の水やりなどを行なっている。</p> <p>○本町～広小路間は電線が木にぶら下がっている。</p>	<p>○長泉町のいいところを取り入れるべき。</p> <p>○年間の花のこよみがほしい。</p> <p>○資金は自治会から出すので、公園に花を植えるなどのアイデアがほしい。(清住町)</p> <p>○景観のため電線を見えないようにしてもらいたい。</p>	校区全体	
	<p>▲年2回「ごみゼロデー」と称して、町内で家の周りなどの清掃活動実施。(寿町)</p> <p>▲8月から、町内の人にゴミ袋に「広小路町 14 組」書いてほしいとお願いした。皆協力してくれて、分別などゴミの出し方も良くなった。他の所から捨てに来る人も減った。</p> <p>○他市町からゴミを持ち込む人がいる。(西若町)</p> <p>○ゴミの分別が沼津市、清水町に比べて緩い。</p>	<p>▲三島市全体でゴミ袋に町内名を書く取組みを進めれば、ゴミの出し方も変わってくるのではないかな。</p> <p>○近隣市町と連携してゴミの持ち込みの対策をしてほしい。</p> <p>○ゴミの分別・水切りの重要性を PR したらどうか。</p> <p>○生ゴミを肥料化して箱根西麓地区の野菜に使ってみてはどうか。</p> <p>○カラス対策として集積所に黄色いネットを掛けたい。</p> <p>○カラス対策としてゴミ袋を黄色にしてみようか。</p> <p>○泉町でも川清掃を行っているが、土日には高齢者にもっと頑張ってもらいたい。</p>		
②地域の連携				
	<p>◆マンション建設時、パンフレットに町内会費を記載すると自動的に組に入る。新しくマンションが建つ際に参考になると思う。(広小路町)</p>	<p>○男性が入れるよう「中央男性学級」を創設してほしい。</p> <p>◆きずなづくり推進モデル地区を紹介してほしい。視察や勉強会などにつながる。</p> <p>◆市民に各自治会の活動内容の紹介・情報発信をしてほしい。</p>	市	